



平成 28 年 9 月 14 日 (水) 定例会発表要旨

北海道 150 年物語

エネルギーコンサルタント

あかりみらい株式会社代表取締役 越智 文雄様



ただ今、ご紹介頂きました越智でございます。私は消エネと地球温暖化を防ごうと節電を呼びかけ、電気料金を下げて経済を発展させる活動が主な活動となっています。

北海道電力に 30 年ほど勤務したあと、エネルギーコンサルタントを設立して今日に至っていますが、今から 10 年ほど前に「札幌なにかができる経済人ネットワーク」を主催し、誰一人として関係ないと言う人がいないテーマが「北海道 150 年記念物語」だと思っています。

2 年後の 2018 年、北海道 150 年物語を祝して北海道アーカイブスを作り記録に残して、未来の子供たちに伝えたい。例えば小説新十津川物語を映画化、あるいは村橋久成を主人公とした NHK 大河ドラマに誘致するとか、札幌時計台を大通り 8 丁目に移転してテレビ塔から大蔵山までを一直線に観光ゾーンを創るなど 150 の提案で、ふるさとまち起こし運動を展開して盛り上げていこうと呼びかけています。

蝦夷地を北海道と改称し開拓使が設置され、函館・札幌・根室の歴史からみても、ここ手稲は皆さんが研究されている手稲郷土史研究会の活動につながっていくのではないのでしょうか。

例えば、

- ① 子供たちへの副読本を出版する
- ② 漫画やアニメでメディアを活用する
- ③ 劇で 手稲物語を脚本化する等、

ストーリーがあれば必ず出来ると思います。そうするためにもアイデアを出していくこと、どんなことでも発信してみる事が大切になると思います。

各地域で出されたアイデアを 2 年後の北海道 150 周年記念事業として企画実現したいと願っています、と御講演をいただきました。

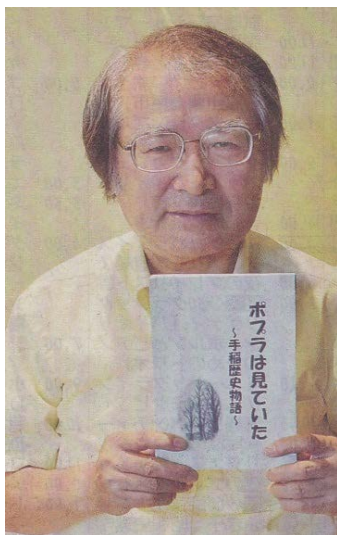
このあと、フリートークで手稲前田の地名は旧加賀百万石藩主前田家第 15 代前田利嗣公が前田家の財政基盤を確立するために、この地に前田農場を創設し酪農王国北海道の発展に貢献されたことや手稲鉦山の「金山」等多くの歴史があり、まだまだ知られていない史実を、視点を変えて発信することが必要ではないかと実感しました。

(文責:佐々木)

開拓の歴史をアーカイブに

- 郷土史を研究して記録に残す。
- 出版、子供たちへの副読本に
- マンガやアニメでも可能
- 取組をテレビ番組に TVh,STV,HTB,UHB,HBC,NHK
- 劇の脚本に「手稲ものがたり」
- 映画企画だってやればできる。
- ストーリーがあれば映画化も
- NHK大河、連続ドラマの誘致まで
- 手稲郷土史研究会で先鞭をつけてください。

手稲の歴史 子供たちに伝える



「多くの子供たちに、手稲の歴史を語り継いでいってほしい」。地域の歴史愛好家で作る手稲郷土史研究会の理事で、小中学生向けの副読本「ポプラは見ていた〜手稲歴史物語〜」を制作した、札幌市手稲区の村元健治さん(68)は力をこめる。

手稲区にはこれまで、子供を対象にした歴史の副読本はなく、小中学生が学校で郷土の歴史を学ぶ時間も少なかった。「子供たちが地域に愛着を持つきっかけになってほしい」と、今年2月から副読本の制作を始めた。10年に及ぶ研究での成果を、小学生にも分かるように整理し直し、7月に完成させた。

かつて活気にあふれていた手稲鉾山や戦時中の手稲の様子などをイラスト付きで20項目、約100頁にまとめた。今月中旬に約300部発行し、区内の小中学校や図書館などに寄贈する予定だ。「この本を読んで、生まれ郷土の歴史を学び、成長してほしい」と期待をこめる。

根室市出身。酪農学園大卒業後、1971年に北海道農業会議(札幌市中央区)に就職した。当時は中央区に住んでいたが、「豊かな自然と古い歴史」に魅了され、73年に現在の手稲区へ引っ越した。以来43年間暮らしている。

今も毎日のように図書館などを訪れ、手稲区の歴史を研究する活動に取り組む。「手稲にはまだまだ発見されていない歴史や魅力がたくさんある。それを掘り起こし、これからも発信していきたい」。

(野村真吾)

北海道新聞原文転載

次回定例会の予定

○花はなぜ咲かせるか

手稲自然くらぶ代表

原田 和彦様

○アポイ地名の

語源と由来について

渡辺 隆会員

2016年11月9日(水)

時間 6:15~8:30

区民センター3階視聴覚室